**南大門**

法隆寺の伽藍への入り口は、壮麗な松の木が並ぶ広々とした通りを通って、8本の柱に支えられたこの優雅な門を通るのが主な通り道である。この門を抜けると幅広い参道に出る。南大門は、かつては中門の近くに建てられていたが、寺の拡張にともなって移築された。1435年の火事により最初の門は焼け落ち、1438年に再建された。建築的な特徴としては、花の形をした継手（花肘木と呼ばれる）や、垂木に彫刻された鼻のような形の装飾（「木鼻」と呼ばれる）を挙げることができる。屋根瓦の一部は1435年の火事の頃につくられたものである。